

## かなよりも漢字の階段は低い

教育というものは、「階段を登るような状態で進んで行くのが最も効率的である」ことは誰も異論のないところだと思います。低い所からその人の足の運びに合った間隔と、高さで一步一步高い所に登って行くなれば、どんなに高い所にも行き着くことができます。

いきなり足の届かないような高い段があるかと思えば、すぐ下がる段に移るようでは、高い所に到達することは、まず不可能です。

高い所に登ろうとする者が、こんな階段を利用することは、実際の階段登りではあるはずもありませんが、これが教育の世界になりますと、その階段が目に見えませんか、いきなり足の届かない段を目指したり、下がる段に足をやったりし、それに気づかないことが多いものなのです。

最初にかなを学ばせ、かなを学び終えてから漢字の学習に移るのも、その例の一つだと言えます。

だから、今、子供たちが、学校でそういう教育をさせられていることを思いますと、私は心が痛んで、たまらない気持になります。

漢字学習の階段は低くて、かなの階段はそれより高い所にあるのですが、先入的固定観念のために、それが逆に見えるものですから、そして、それを信じ切ってまったく疑いを持たないものですから、私一人の力くらいでは、これをどうすることもできません。

それでも、嬉しいことに、識者の間では「初めて文字を学ぶ幼児には、漢字の方がかなよりも覚えやすい」という考えが次第に受け入れられつつあります。この教育を、小学校でかな学習を始めるのに先立って幼稚園で始めようという先生方も、この十年間に随分増えました。参考までに、最近、新聞や週刊誌などに紹介された例を掲げてみます。

まず、毎日新聞の55年6月17日の朝刊に「ボク“梅雨”読めるんだ」という題で、私の勤める板橋の青桐幼稚園の漢字学習のようが紹介されました。ついで、同年7月25日号の週刊朝日に「幼児にはかなより覚えやすい」と謳って、東京足立区の梅島幼稚園が取り上げられています。ここは43年から漢字教育に取り組んでいて、全国でも草分け的な存在です。

ここでは、私の製作の漢字絵本を使って学習を進め、季節に合わせた歳時記風の話や童話の他、俳句や諺を教えるなど、着々と漢字学習が効果を上げている様子が紹介されています。

このように、漢字教育を実践している幼稚園が、日本全国ですでに300園を越えています。

これらの幼稚園の実践の結果が、近い将来に他の多くの幼稚園の目を聞かせてくれるだろうと思い、私はそれを今楽しんで心待ちしているところです。